

# 環境に係る情報協議会

## 国営農地再編整備事業 問寒別地区

### 1. 環境に対する考え方

#### 《農村環境の現状と課題》（「幌延町田園環境整備マスタープラン」より）

##### 【現状】

幌延町は、広大なサロベツ原野を含む国立公園の玄関口になっている。原野には、多くの植物群落があり、また川の一部には、希少な魚類などが確認されている。

##### 【課題】

幌延町の農用地は、泥炭地という特殊土壌地帯が多く、また低地である。農作物の生産性を高めるためにも、河川、排水路整備は必要不可欠な整備であるが、湿原、河川に生息する貴重な資源を保全するうえでも、土砂流失防止、魚道の整備など、生態系に配慮した整備を行う必要がある。

#### 《環境保全の基本的考え方》（「幌延町田園環境整備マスタープラン」より）

自然環境の保全と、動植物の生態系に配慮しながら、積極的に農業農村整備事業を行い、家畜ふん尿などを資源とした自然と共生した循環型の農業振興を図る。また、自然と調和した農村景観の整備を進める。

### 2. 環境配慮計画の策定に向けた調査

#### 《基本方針》

##### ○調査位置の考え方

本地区の環境調査は、既往調査を踏まえ、地区内を縦貫する問寒別川の上流エリアと下流エリアの2つのエリアにおいて調査位置を決定する。

##### 【動植物の生息・生育調査】

既往調査の情報が不足している、支流河川沿いにおいて、問寒別川上流エリア及び問寒別川下流エリアにおいて現地調査を行う。

##### 【水質状況調査】

問寒別上流エリア：十六線川と問寒別川合流点  
問寒別下流エリア：ケナシボロ川と問寒別川合流点

##### ○調査項目の考え方

既往調査結果を活用するとともに、本事業で想定している整備により、生息・生育環境に直接影響を与えることが想定される各区域において、既往調査が不足している項目に対し、現地調査を行う。

#### 《環境調査内容》

○調査項目 ①哺乳類 ②鳥類 ③魚類 ④両生類・は虫類  
⑤昆虫類 ⑥底生動物 ⑦植物 ⑧水質

○調査方法 哺乳類：目撃法、フィールドサイン法  
鳥類：定点観察法、ラインセンサス法  
魚類：採捕調査  
両生類・は虫類：捕獲法、目撃法  
昆虫類：任意採集法、ベイトトラップ法  
ライトトラップ法  
底生動物：定性採集法  
植物：植物相調査  
水質：SS、濁度